

## 第42回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会会議録

- 1 会議名 第42回一関地区広域行政組合一般廃棄物処理施設整備検討委員会
  - 2 開催日時 令和5年7月19日（水）午後1時30分から午後3時20分
  - 3 開催場所 一関市役所特別会議室
  - 4 出席者
    - (1) 委員 石川隆明委員長、菅原幹成副委員長、佐藤和浩委員、西山朋志委員、千葉光祉委員、千葉敏紀委員、岩渕嘉之委員、佐藤正幸委員、菅原彰委員、蜂谷敏志委員
    - (2) 事務局 吉田健総務管理課長、菊池弘施設整備係長、石川勝志主査、日下尚也主事  
一般財団法人日本環境衛生センター4名（以下、日環センター）
  - 5 議 事
    - (1) マテリアルリサイクル施設整備基本計画（案）について
  - 6 公開、非公開の別 非公開
  - 7 協議内容
    - (1) マテリアルリサイクル施設整備基本計画（案）について  
事務局 6月に開催した説明会およびパブリックコメントについて報告をさせていただきます。  
マテリアルリサイクル推進施設整備基本計画（案）について説明会の開催およびパブリックコメントを実施した。パブリックコメントの実施については、くらしの情報、プレスリリース、説明会、市の公衆衛生組合連合会理事会、平泉町行政区長会議にて周知を図り、意見を頂戴したところである。  
説明会での主な意見は、分別区分について、案のとおりとしてよいというもの、従来通りとするべきというもの、さらに細かく分別するというもの、より簡単にすべきであるとするものなど様々なご意見があった。  
また、危険有害ごみのスプレー缶の取り扱いについて、穴あけを施設ではなく家庭で行った方がいいというご意見、集積所での収集方法についてご質問いただいた。  
パブリックコメントについては、特にPFAS（有機フッ素化合物）汚染に関する検査を加えてほしいという意見が寄せられたが、プラント排水は放流せず施設内で再利用することから、現時点では予定していない。ただし、全国的な動向を注視していく。  
説明会での意見は、全体としてより資源化が進められるよう求めるものであり、本計画はそうした主旨に沿った内容の計画としているため、計画の修正は行っていない。パブリックコメントによる変更も行っていない。  
（資料No. 1-1から1-6により説明）
- 委員 資料No. 1-6のNo. 1について、意見等の内容と意見に対する考え方がすれ違っているように感じられる。
- 事務局 修正する。
- 委員長 PFASについて、今後の方向性もこれからということによいか。

日環センター PFAS については、4,700 種類とも、7,000 種類とも言われており、例えばフライパンのテフロン加工などに使われている。これらのうち、泡消火に使われるようなものが有害ではないかとされており、アメリカ軍基地があるところで井戸水などが現在問題となっている。

今回計画しているマテリアルリサイクル推進施設等においては、水を施設外に排水しない施設のため、問題ないと考えている。

PFAS については、医療関係の輸血のパイプ、点滴等に使用されており、まだ代替品というものは見つかってない段階である。今はその分析法やどこまでの害があるかというものもまだはっきりとしていない。

注視していきながら、今は暫定の指針ということでの基準はあるが、今後、国としても環境に対する基準を検討しようという段階のため、すぐ取り組むというのは難しいことと思う。

中間処理施設というよりも、水環境に関わることのため、埋立地の浸出水について、ご質問いただいたことに対し、答えられるものがあればと感じる。

委員長 パブリックコメントについて、期日が過ぎて提出されたものがあったのか。

事務局 あった。ご本人に、期限が過ぎた後の提出であるため、回答の公表は難しいということをお伝えし、いただいた意見については、関係部署に情報共有をさせていただくことで了解をいただいたところである。

委員長 それでは、次の財源計画について説明願う。

事務局 「第 13 章 財源計画について」報告させていただく。

「第 1 節 建設費」について、2013 年から 2022 年の過去 10 年間の建設実績を参考に算出した 1 トン当たりの単価で見込んだ建設費を約 2,320 百万円と見込み、さらに高騰している建設資材費および労務単価の上昇率として 1.3 を乗じ、3,016 百万円とした。なお、建設費については「建設コストの動向を見極めつつ、再度確認を行うものとする。」とした。

交付対象事業費について、アンケート結果により、交付対象 90%、交付対象外 10%として設定した。

(資料 No. 2 により説明)

委員長 組合議会での組合議会議員全員協議会では、建設費についてどのように説明を行ったか。

事務局 6 月に開催された組合議会議員全員協議会での説明の段階においては、過去の実績を参考にとり前提で試算したということで 2,320 百万円という説明をしている。

今回はそれに昨今の状況から、係数として 1.3 を乗じて 3,016 百万円としたところである。組合議会議員全員協議会での説明の際には過去 10 年間の実績で見ると 2,320 百万円になるというような説明をしている。

委員長 他の自治体の状況はどうか。

日環センター 同じような進捗状況のところ、県内では岩手中部広域行政組合が不燃

ごみ処理施設だけで40億円という予定価格となっている。

組合議会議員全員協議会での説明で建設費23億円としたものに対し、計画に30億円と載せるのは高いという印象を受けるかもしれないが、現状ではやむを得ないと考える。

委員長 この委員会とすれば、資料No. 2で良いと考える。

それでは、財源計画については以上とする。

3つ目の全体計画の確認について説明願う。

事務局 より分かりやすくするために、表現、誤字等文言を全体的に修正した。

4ページについて「プラスチック製容器包装・製品プラスチック」としていた名称を、簡潔に分かりやすくするため「(仮称)プラスチック資源」と改めた。なお、「(仮称)」を取る時期については、今年度「一般廃棄物処理基本計画」の見直しを行うこととしているため、その時点で正式な名称を検討いただくこととした。

27ページ「安全対策」の「(3)労働災害防止対策」のところ、インターロックの活用を記載しているが、見直し前は「(5)その他」に記載していたものを、項目として「労働災害防止対策」が相応しいであろうということで修正したところである。

63ページについて、全体配置図の名称の記載の方法を変更した。なお、⑦が今回見切れているため、後ほど修正する。また、図に方位印を追加した。

内容が大きく変わった点はない。

(資料3-1、3-2により説明。)

委員長 何かお気づきの点あればお願いします。

委員 説明会の意見に戻るが、炎天下に置いておくとスプレー缶が爆発するのではないかという意見があったと思うが、それは入っているか。スプレー缶に40度以上のところに置くと爆発する危険性があるため置かないでくださいと書いてあるが、炎天下に燃えないごみで置くと、40度以上になるため危険ではないかという意見があったかと思う。

事務局 53番、着火温度について質問があり、そういった意図で質問いただいたものと理解し確認した経過はあった。

委員 そうであればその答えもあっても良いのではと思う。

炎天下のアスファルトの上に置いておくと危険ではないかという主旨であったように思う。

事務局 確認させていただいたが、火種がないと着火しないという回答があったところである。熱を持っただけでは着火しないというところであり、他自治体においても事故は発生していないとされている。なお、原則として使い切って出させていただくこととしているため、前段階の周知が重要であると考えている。

委員 火種が無ければ着かないということであれば、そういった注意書きにはならないのではないか。40度以上だと破裂の危険性があるからの記載ではないかと思う。

事務局 膨張により爆発するという意味の記載と捉えている。

委員 そうであれば、使い切って出すという周知を徹底していただくしかないと思う。

委員 この概要版はどのような形で公表されるか。また新しい分別区分について、古着や危険・有害ごみを本当に出してよいのかという部分があるかと思う。

そのためこの概要版が市民の方にどのようにオープンになり、その時点でまた意見をもらったり、直せるのかというところを確認したい。

事務局 計画については、施設整備に関する計画というところで一通りは完結となる。先ほどの古着、危険・有害ごみの実際の回収については、これからということになるのでその段階でまた改めて、検討し周知するという形になる。

この計画案についてはホームページ、また、さらに要約したものを組合広報に掲載し、全戸に配布するという計画になっている。ここから手直しということではなく、完成版としていくイメージである。

本当に見直しが欲しいということであれば、これから一般廃棄物処理基本計画を見直しするため、そこでご意見があればということとなる。

委員 DBO方式として検討ということだが、期間はどのように見ているのか。

事務局 焼却施設であれば、他の事例から15年から20年という長さで契約している例が多いところである。

委員長 短くすることがいいときもあるかもしれないが、これは世の中の動向次第という部分もある。

委員 施設の種類によってかとは思いますが、一般的に20年は通常か。

事務局 20年が一番多いところである。

委員 計画書4ページ、プラスチック「資源」ということだが、「資源」ごみの中の分類であるため、「資源」という言葉は不要であると思う。プラスチック「類」でもいいのではないか。すべて資源ごみであるため、「類」でもいいのではないか。

事務局 プラスチック「類」について、最終的な案はプラスチック「類」でもよいと考えるが、今回新たに区分するものであり、資源にならないプラスチックもあるため、今回の表現としてはプラスチックの中でも資源となるものであるという意味で、資源という表現を入れたところであることから、今回はそのまま進めたい。

委員 名称は一般廃棄物処理基本計画が策定した時点で全て確定するということで見直しの余地はあるという状況ということではどうか。

事務局 そのとおりである。

委員 スケジュールとして7月の策定予定ということであるが、概要版をいつの広報で周知を図りたいと思っているかなどスケジュールはどう考えているか。

事務局 今後の予定について、計画が7月末までの策定ということとなれば、9月に組合広報として、最終処分場の生活環境影響調査に関する説明会の開催案内と併せて掲載する予定である。

## 8 担当課 総務管理課